



関ロータリークラブ

URL <http://www.seki-rc.org/> E-mail seki-rc@abelia.ocn.ne.jp
TEL (0575)22-9332 FAX(0575)22-9977

RID2630 ROTARY CLUB OF SEKI ■会長 今峰 徹 ■副会長 大澤竜一 ■幹事 池村真一郎



人類に
奉仕する
ロータリー

2016~17 年度国際ロータリーテーマ
「人類に奉仕するロータリー」 ROTARY SERVING HUMANITY
RI 会長 ジョンF. ジャーム
2016~17 年度 関ロータリークラブテーマ
「おもいやり」 第51代会長 今峰徹

第 2427 号

平成 28 年 8 月 23 日 (火)

前例会の記録・第 2426 回 8 月 9 日(火)12:30

「新会員スピーチ」 酒向徳享さん

「地区R財団研修セミナーの報告」 今峰徹さん

◆開会点鐘

◆「君が代」「奉仕の理想」斉唱

◆ビジター紹介

関中央ロータリークラブ 会長 石原妙生様

〃 副会長 川村紳一様

〃 幹事 波多野篤志様

◆会長挨拶



本日は関中央ロータリー会長 石原妙生様、副会長の川村紳一様、幹事 波多野篤志様、お忙しい時間を縫って御来訪いただきましてありがとうございます。ロータリーの基本概念としましては、親睦もしくは友愛と訳されます fellowship として奉仕があり、奉仕も純粋な見返りを求めない奉仕と、見返りを期待する職業

奉仕があります。この中で最初に発生した概念は親睦です。1905年2月23日初回会合がユニティービルの711号室で開かれました。ポール ハリス、鉦山技師のガスターバス ローア、洋服商のハイラム ショリー、石炭商のシルベスター シールの4人が集まり、そこで、1業種1会員とし同業者を排除すれば、職業人同士でも親類つきあいができると提唱し「一業一会員制の原則」を決定しました。第2回会合はポール ハリスの事務所で行われ、「職場持ち回りの原則」を決めています。この会合でハリー ラグルス、ウィリアム ジェンソンの2名が入会しています。この6名がパイオニアベテランと特別に称されています。3月23日3回目の会合がシルベスター シールの石炭置き場で行われた。この時、損害保険の代理業者であるチャールズ A ニュートン、アルバート ホワイト、アーサー アーウィン3名が入会しています。この時にクラブ役員、クラブ名、会員資格に関する原則が決定されているため、実質的創立集會に当たるとされています。1906年1月定款、細則が定められました。第1条に会員の業務上の利益を振興すること第2条に性質として社交クラブにともなう親睦その他望ましい

諸点を振興すること、とあります。これは、第1に、物、サービスを買うときは会員から買うこと、そして注文を受けた会員は、利益を計上せずに原価取引をすることとしましたが、弁護士などの原価の算定は難しく、原価取引の精神でという形で落ち着きました。第2に、お互いの職業を宣伝し合うことです。会員以外の人から、誰か良い弁護士はと頼まれた時にポール ハリスを紹介するなど、会員の職業をお互いに宣伝し合うことをし、これを例会で報告するようにしました。そして、お互いの信頼が醸成され、第3として自分の経営上の障害・問題を持ち寄りクラブのみんなの知恵で解決するようにしました。ほかの会員が経営コンサルタントとなって助言をします。ここには会員がほかの会員の幸せを考える親睦と称する友情があります。第4にその利益を最大にするための会員増強です。セールスポイントは、同業者は入会できない、誠実な人しか入会できないという原則を貫き、会員を増やしていきました。そして6月ドナルドカーターが奉仕の概念を注入し、親睦対奉仕の長い論争がここから始まります。劔田ガバナーも言うておられますが、ロータリーの基本はシェルドンの唱えた職業奉仕だと考えます。そしてそこでできた余力を外に向かわせると「見返りを期待しない奉仕」となり、内に向かえば「親睦」です。最近では奉仕関係が目立ってはいますが、親睦もとても重要です。親睦により落ちこぼれかけた会員を救うこともできるでしょう。親睦により会員の業務の長所短所もわかるでしょうし、経済的な理由による退会も防ぐことが可能と考えます。これにより会員の経済力が上がれば奉仕活動もより有意義なものが可能となります。樹木でたとえるなら、根は親睦、果実は奉仕、光合成を行う葉は職業奉仕、幹は会員の属する会社の経済力です。どれが欠けても、理想のロータリークラブの形にはなりません。

◆委員会報告

◎出席委員会 委員長 西本理美

会員 47 名中 出席 25 名 出席率 55.55%

◎ニコボックス委員会 委員 古田貴巳

会長・副会長・幹事の皆さん・・・本日は、ロータリー財団研修セミナーの報告という事で今峰会長が皆様にご報告

をさせていただきます。そして、新会員スピーチ酒向さん宜しく願い致します。

長尾、山村、山谷、後藤、堀部の皆さん・・・関中央 RC の会長、副会長、幹事の皆様ようこそ関 RC 例会へお越しいただきました。今峰会長、ロータリー財団研修の報告どうぞよろしくお祈り致します。新会員の酒向さん、スピーチよろしくお祈り致します。

早川、清水(公)、高井、三輪、土屋、岩倉の皆さん・・・7月25日、みね家さんにて、IGM が開催されました。ホストの後藤さん、大変楽しい時と美味しい食事、どうもありがとうございました。

清水(善)、酒井、今峰、加藤(浩)、西本の皆さん・・・8月7日、ふる里農園で、IGM が開催されました。ホストの林昇さん、BBQ とても楽しかったです。どうもありがとうございました。

◆ IGM の報告 報告者 三輪雄彦さん

日時：7月25日(月) 18:30 場所：みね家

ホスト：後藤信介 リーダー：清水公男

R 情報：高井昭裕 義務出席者：早川力、三輪雄彦

特別出席者：土屋佳久、岩倉宏幸

乾杯の前に、先立って前三役のご苦勞様旅行として行きました熊本旅行のお話を私からさせて頂きました。状況として被害が大きかった地域も含め市街地全体のライフラインはほぼ元通りになりましたが、阿蘇方面ではトンネル、鉄道が寸断され、まだまだ不便な生活を余儀なくされているようです。倒壊家屋はほとんどが手つかずで、道路の確保が出来ている状態。今後がれきの撤去、半壊建物の解体には3年以上かかるとの事でした。崩れた屋根はブルーシートで応急処置がされていますが、全ての家屋の修理にはまだ相当な時間がかかりそうでした。繁華街はほぼ賑わいを取り戻しており、観光客も徐々に増えています。現在、復興割引の観光ツアー企画も沢山あり、復興支援も兼ねて熊本に行かれる事をオススメ致します。グルメ、観光共にオススメスポットをご案内させて頂きます。テーマ一つ目は50年を迎え！です。50年という長い歴史がある関ロータリークラブは、常に世代交代がなされてきたクラブであると言えます。現在も若者の構成比率も年々上がり、頼もしいロータリアンが育ちつつあります。私も関 RC は若者を大切にさせて頂きたいという印象を持っております。先輩方は一様に、若い人たちの意見を聞いて下さり、やらせて下さいますし、後で苦言を言われることもありません。素晴らしい先輩ばかりだと思います。但し昨今、いずれのクラブも会員の減少が大問題となっています。そんな中で関と関中央と合併という道はあるのか？と若手から意見が出ました。合併には例会時間の違い、会の雰囲気、慣例も違うので、なかなか一筋縄ではいかないと教えて頂きました。なぜ関に2つのクラブが存在するのか？という疑問がまたまた若手から出ました。関中央 RC は関 RC が誕生して、その10年後に誕生している訳ですが、小さな街でなぜ2つのクラブが出来たのか？と当然の疑問が湧いてきます。私はてっきり、血気盛んな方が謀反を起こして、飛び出して作ったのかと思いましたが、それは全くもって違うと言う事でした。昔は RI の指導で、とにかく人数を増やせ！クラブ数を増やせ！と言う時代だったそうです。現在は1つのクラブを運営するにも大変だということに、昔は時代が良かったとは言え、大変なご苦勞があったと、先輩方の偉大さを感じました。歴史を語る中で OB メンバーの小瀬木さんのカレーは美味しかったと懐かしむ声が聞かれました。カレーを作ってみえたのは OB 小瀬木さんの息子さん。ここで小瀬木さんネタを！小瀬木さんはオーストラリアに留学し、オーストラリアのどこかの町の JC の理事長も経験された経歴を持ち英

語が堪能、今蕎麦打ちをやってお見えですが、その蕎麦はなんとオーストラリアで教わったという事。2つ目は、ホストがタイムリーに次年度の会長後藤さんということもあり高井先生から「クラブの長期目標を制定することの必要性について」お話があり、関 RC の進むべき方向性を話し合いました。それに対し51周年会長として着々とご準備の最中の後藤さん、50年を過ぎて1年目という年、相当な気合いが入っている様子でした。

締めのお言葉として清水公男さんより、「50周年、更に未来に向けて良き仲間と良き論議が出来ました。ロータリーはとにかく例会に参加することが大切、友人3人のスケジュールもなかなか合わないと言うのに、30名もの関市を代表するメンツが揃うだけでも素晴らしいこと。すごいこと！まだまだこれから暑い日が続きますが、元気にやって参りましょう！」と締めて頂きました

◆ IGM の報告 報告者 西本理美さん

日時：8月7日(日) 11:00 場所：ふるさと農園

ホスト：林昇 リーダー：加藤浩二

R 情報：酒井泉 義務出席者：今峰徹、西本理美

特別出席者：清水善光

◆ 「新会員スピーチ」 酒向徳享さん



この度ロータリークラブに入会させて頂きました、酒向です、よろしくお願い致します。私ははるさと不動産という屋号で、4年前に不動産業で開業させて頂きました。開業するまでの私の経歴を自己紹介としてお話しさせていただきます。私は学校で測量設計を学びまして卒業後、美濃加茂市にある土木会社に就職しました。そこは1年ほど勤めその後、各務原市にある不動産登記・測量の事務所に勤務し、主に土地家屋調査士、行政書士の仕事に携わり、測量設計や、行政への許認可の仕事をしてまいりました。本来ならその様な事務所に勤務すると、その仕事の資格を目指したりもするのですが、なかなか勉強もできず、それとは別に自分の中で何か商売をと思い始めました。10年程不動産登記の仕事に携わったため、不動産業者にも繋がりが多くあり、それで賃貸物件に特化したハウスクリーニングを主としたリフォームの仕事を自営で始めました。始めて3年目の頃、お得意さんの不動産業者さんからこんなことを言われたのです。「土木業界も経験して、不動産登記や、農地法や開発申請も一通り覚えて、アパートや借家のリフォームもできる、これって全部不動産業として必要な知識で、それを生かせば、すぐ不動産業界で仕事ができると思うよ」と、それに付け加え、「宅建の資格に合格すれば、こちらが入社をお願いしたいくらい」と言っていた言葉が、不動産屋になろうと思ったきっかけでした。それでリフォームの仕事をしながら宅建の勉強も始めてところ、なんとか一年で合格し、それを機に、各務原市の不動産会社に就職をしました。不動産業と言いましても、いろいろな業務があり、特に皆様のようにご商売をしてみえる方々ですと、一度や二度は関係する身近な業界だと思えます。私が携わってきた業務を簡単にご説明しますとまずは土地の仲介、売りたいAさんと、買いたいBさんとの間に立ち、仲人役をする仕事です。他に土地の分譲、100坪位から1000坪以上の土地を購入し、自社にて

工事を行い、数区画の分譲住宅用地を売り出します。他に不動産賃貸の仕事もあります。一般的にはアパート、マンション、借家等の入居者募集業務や管理等です。賃貸には他に、事業用の土地の賃貸もあります。地主様より企業や飲食店業者等が土地をお借りし、その土地の上に事業用の建物を建築し、20年や30年の長期の期間で契約をします。このような業務をしながらいつかは独立との考えもあり、一通り経験し、学んできて自信も付いてきましたので、独立開業をする事にしました。20年以上各務原市で不動産に関する仕事をしてきましたので、各務原市で開業も考えたのですが、自分の地元である関市の地元密着の不動産屋を目指したいと思い、関市で開業をいたしました。関市でお仕事長い方から見れば、まだまだ私は駆出しですので、どうかご指導よろしくお祈りします。

◆「地区R財団研修セミナーの報告」 今峰徹さん



平成28年7月24日岐阜都ホテルで行われたロータリー財団研修セミナーに後藤信介さんと一緒に参加した。駐車場が大変混み合っており後藤さんには大変ご迷惑をおかけしました。岐阜都ホテル2階のボールルームで行われ、席表をもらって食事。12時点鐘。R財団部門委員長辻正敏様が最初に演壇にた

たれ、2016～2017年度RI第2630地区R財団部門委員会についてという表題で話された。現RI会長ジャームの父親は1958年成人でポリオにかかり大変な苦勞をしてポリオの後遺症に打ち勝った逸話を言われた。また劔田ガバナーはRI会長賞への挑戦、ポリオ撲滅へのさらなる協力、R財団年次寄付の増進、会員増強が目標であり、職業奉仕が重要であることも強調された。研修委員長の石垣智康様の挨拶の後、イラクのキルクークで漫画を使って宗教、部族を超えたふれあいを続けていた池田末樹様講演があり、子供を通じて親同士の交流もできはじめたところで、現在はISが入ってきて中断。特に援助をするときは、入念な調査をしないと物資が武器に変わることもあるという。資金推進小委員会委員長の本弘路可様の講演は、財団セミナーの開催と11月の財団月間に各クラブへの卓話講師の派遣、ポール・ハリス・ソサイエティへの入会者の募集、年次寄付金150ドル、ポリオプラスとして一人30ドルの目標設定を各クラブに依頼すること。ポリオプラス委員会委員長の杉山克様はポリオ撲滅への取り組みというテーマで話され、現在ポリオは99%まで発症数が減少、パキスタン、アフガニスタンを残すのみ。ロータリアンにいっそうの関心を持ってもらうための事業を行うとともに、指定寄附(ポリオプラス基金)、およびロータリーカード加入促進すること。資金管理(補助金管理)小委員会ではMOU(クラブの参加資格認定：覚書)これを各クラブと地区で交わし、実施される事業がより効率的、有意義に実践されるようにする。また本年10月29日第二回R財団研修セミナーとして補助金管理セミナーを行う。グローバル補助金は少ないので、できるだけ使ってほしいとのこと。現地に行くことが原則であるが危険なところへの補助金はボランティアセンターと相談し、当該クラブでボランティアの報告会を年2～3回行えばいいとのこと。(ここの部分は注意)補助金申請と事業報告書は地区でまとめて提出するため事業報告

書の遅滞があると補助金申請が出せず、地区内の他クラブが迷惑する。提出期日は必ず守ること。また申請者と報告者は同じ担当者とする。地区補助金の支給額は3年前の年次寄付金への額に応じて支給額、限度額を決定する。単位はドルで為替変動にて変化する。地区補助金ではないことは

- ①事業内容を勝手に変更
 - ②単なる寄付金事業や、他団体が主催する事業の相乗り
 - ③最終報告書の不備
 - ④資金使途の不明確な事業
 - ⑤前年と全く同じ相手先に前年と全く同じ事業
- グローバル補助金は実施国、援助国の地区またはクラブのおのおの代表者1名と一般2名が必要で、地区RI財団部門委員会に事前相談をすることが必要。
- グローバル補助金利用のポイントは
- ①信頼できる地区、クラブと組む
 - ②地区補助金などで、数年共同事業を組んだ後の発展形
 - ③協力団体任せは注意(第3提唱者に協力団体がある場合)
 - ④事前視察は必要、中間・完了時に現地に出向くことを織り込む(すべての費用は、GGだけではまかなえないことを認識すること)
 - ⑤可能な限り現地調達であるが、相手の手配任せは注意
 - ⑥領収書(翻訳)、記録写真(日付入り)
 - ⑦金の流れ、使途が明確であること。後日証明できること
 - ⑧同じ相手と同じような事業を継続して取り組む場合は注意

その後、石垣智康様の講評のあと由良久様の所感、点鐘で終了した。

※ロータリー財団関係ではよくポリオプラスという言葉がつかわれます。それは1978年東京国際大会で3-Hプログラム(保健、飢餓追放 および人間性尊重補助金)が開設され、その第一号に1989年フィリピンのザビノサントスバスターガバナーの要請によりフィリピンでのポリオ集団予防接種事業が3-Hプログラム第一号として行われました。1985年RI80周年を記念して、はしか、百日咳、ジフテリア、破傷風、結核の5種を加え、ポリオプラス計画を発表しています。3-Hプログラムの発展形が「ポリオプラス」です。

◆幹事報告

- ◎例会終了後「理事、役員会」開催
- ◎例会変更と休会通知
 - ・各務原かかみのRC
- ◎不破RCと不破の関RC 7月1日付で合併
 - 合併後のクラブ名は不破ロータリークラブ
- ◎訃報
 - バスターガバナー 岩崎二郎様(津北RC所属) 99歳にて逝去

次例会のご案内 9月2日(金)12:30 8/30の変更
 ガバナー公式訪問 3クラブ合同例会
 国際ロータリー第2630地区ガバナー 劔田廣喜様
 ホストクラブ:美濃ロータリークラブ
 於:美濃緑風荘

 例会:毎週火曜日12:30
 例会場:岐阜県関市本町6-20大垣共立銀行関支店2F
 事務局:岐阜県関市平和通7-10-25アメリカ2F